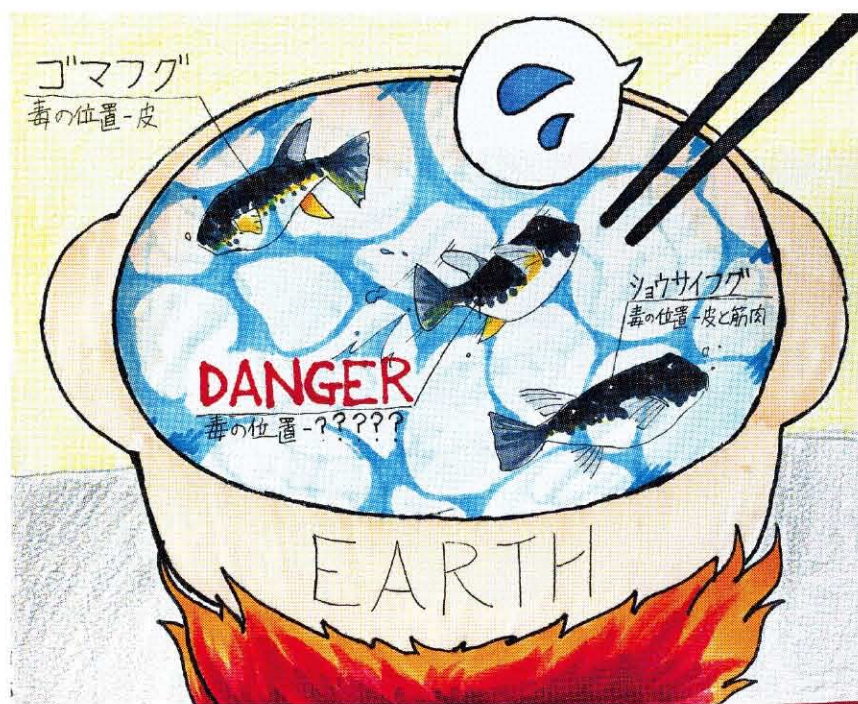


# 時事漫画 読み・描くスキル

【大阪】

新聞のニュースを1枚の漫画でわかりやすく伝え、少し風刺も効かす。ストレートにニュースを伝える記事の執筆よりも、時に高いセンスが求められる「時事漫画」の作成に、大阪成蹊女子高校（大阪市東淀川区）美術科の女子高生236人が取り組んでいる。10年間授業を続けてきた高橋千尋教諭は「時事漫画を作ること、今生きている社会について学ぶ。自分の考えを深めていってほしい」と話す。（編集企画室 藪内朋之）



有毒部位の不明な雑種フグが増えている危険性を表現した久保江梨佳さんの時事漫画



漫画にするために記事を探す生徒たち  
—大阪市東淀川区の大阪成蹊女子高校

## 大阪成蹊女子高校

授業は週に1回。生徒は、多くの新聞の中から絵に表現したい記事を選ぶことから作業を始める。「ニュースをあまり見聞きしないため、生徒には難しいようです」と高橋教諭。そこで生徒たちは同時に、新聞に掲載された時事漫画を読み解くという課題にも取り組む。時事漫画に込められた皮肉を理解しようとする、生徒はその関連ニュースを調べなければならぬ。

ある新聞に掲載された、紙幣の新デザインをモチーフにした時事漫画。新しい一万円札に用いられる渋沢栄一が「日本経済の未来は

キャッシュレス化になるでしょう」などと述べている。紙幣の肖像に取り上げられた人物が、キャッシュレス決済を「推進する」という皮肉。

「新聞で関連するニュースを読むことで、漫画に込められた皮肉が分かる。そして読み解くことを繰り返していくことで、どういった記事を漫画にするか、探していくスキルも高まります」（高橋教諭）

同校が、本格的に新聞の活用を始めたのは、平成8年度から。森朱美教頭は「きっかけは、ニューズランドへの語学研修だった」と振り返る。英語教諭として研修を引率した森教頭が目の当たりにしたのは、自国の大統領や政治経済の話に熱心にする地元の高校生たちの姿。「うちの高校生は、日本の社会情勢について話すことができなかつた」ことにショックを受け、その後、新聞5紙の活用を始めたという。

時事漫画の授業は美術ではなく、総合学習の時間なので、美術を専門としない担任教諭が受け持つこともある。10年間続けてきた高橋教諭も、実は数学担当。

「絵のうまさではなく、記事をどう読み解き、絵に落とし込んでいくのがポイント。新聞を読む生徒が減っている中で、新聞を使って、教科書では学べない、『今』を学んでほしい」と期待を寄せる。

「EARTH」と書かれた鍋が火にかけられ、その中には3匹のフグ。3匹のうち中央のフグは雑種のため有毒部位がわからず、食べることはできない…。

2年生の久保江梨佳さん(16)の漫画だ。フグは種類によって有毒部位が異なるが、有毒部位の不明な雑種フグが三陸沖で増加。地球温暖化のため海水温が上昇し、日本海側で多いはずのゴマフグが入り込んだことが原因だと考えられる。という、平成30年10月の産経新聞のニュースをもとにしたものだ。

鍋に見立てた地球を「煮立てる」ことで、温暖化を表現しており、「地球温暖化に目を向けないことが、どれほど危険かをみんなに知ってほしいという思いで描きました」と久保さん。高橋教諭も「人間が引き起こした温暖化によってフグの生息地が変化し、気づかずに私たちが食べようとしていることをうまく表現している」と評価する。

## 新聞記事からテーマ探し 理解深め